



# Amazon SageMaker の基礎

Amazon Web Services Japan Machine Learning Solutions Architect

Shoko Utsunomiya

# 自己紹介

# 宇都宮 聖子

- 機械学習ソリューションアーキテクト
  - 機械学習サービスを担当
  - 前々職は量子情報の研究者
  - 前職は自動車OEMで自動運転開発
  - 担当領域
    - 自動運転、AIヘルスケア、AI ゲーム、Startup
  - 好きなサービス
    - Amazon SageMaker







# アジェンダ

- 機械学習の課題に対する SageMaker のメリット
- SageMaker を利用した機械学習プロセス
- 機械学習の開発・学習・推論を効率化する基本機能
- ・まとめ



# アジェンダ

- 機械学習の課題に対する SageMaker のメリット
- SageMaker を利用した機械学習プロセス
- 機械学習の開発・学習・推論を効率化する基本機能
- ・まとめ



# 典型的な機械学習のワークフロー 夕取得 監視・評価 データ前処理 データ収集 本番環境へ モデルの開発 のデプロイ モデルの学習 モデルの評価



# 典型的な機械学習のワークフロー





監視・評価データ収集

データ前処理



# できるだけ高速に負担なくこのサイクルを回したい



本番環境へ のデプロイ

モデルの開発



モデルの評価

モデルの学習





# 機械学習における "Undifferentiated Heavy Lifting"

### 開発環境構築

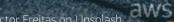
- 必要なリソースの見積もりと購入の決断
- 開発チームで均一な開発環境構築
- フレームワークのインストール、バージョン管理

## 機械学習モデルの学習

- CPU/GPU など用途にあったハードウェア環境提供
- スケーラブルな分散学習構築と広帯域な通信環境

### 運用

- 推論環境の準備とモデルのホスティング
- 機械学習と異なるスキルセットが求められる



# AWS の提供する機械学習スタック

Speech

AI SERVICES

App developers with little knowledge of ML



Amazon Rekognition Image





Amazon Rekognition Video



Amazon Textract



Amazon Polly



Amazon Transcribe



Amazon Translate



Language

Amazon Comprehend



Amazon Lex



Chatbots

Amazon Forecast

鲴

Forecasting



Amazon Personalize

Recomme

ndations

ML SERVICES

ML developers and data scientists



Amazon SageMaker <u>Labeling</u>

Model development

**Ground Truth** 

Notebooks Algorithms Marketplace <u>ment</u> Supervised Learning

Unsupervised Learning

Reinforcement Learning <u>Training</u>

Training

Optimization

(Neo)

**Hosting** 

Deployment

Hosting

ML FRAMEWORKS & INFRASTRUCTURE

ML researchers and academics

**Frameworks** 

TensorFlow

mxnet

PYTÖRCH

Chainer

<u>Interfaces</u>







Amazon EC2 P3 & P3DN



Amazon EC2 C5



FPGAs



**Infrastructure** 

AWS Greengrass



Amazon Elastic Inference



Amazon Inferentia



# AWSの提供する機械学習スタック

# マネージドサービスを活用し ビジネスの価値にフォーカス

### ML SERVICES

ML developers and data scientists



Amazon SageMaker

### Labeling

Ground Truth

### Notebooks

Marketplace

### Model development

Unsupervised Learning **Algorithms** 

> Reinforcement Learning

Supervised Learning

### **Training**

Optimization

(Neo)

Training

**Infrastructure** 

### Deployment

Hostina

Hosting

ML FRAMEWORKS & **INFRASTRUCTURE** 

ML researchers and academics

### **Frameworks**



#### **Interfaces**







Amazon EC2 P3 & P3DN



Amazon FC2 C5



**FPGAs** 

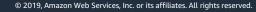


**AWS** 

Amazon Elastic Greengrass Inference



Amazon Inferentia





# Amazon SageMaker とは

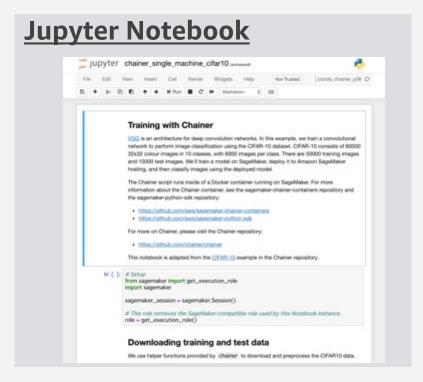
- 機械学習プロジェクトの課題を解決するためのマネージドサービスで、 数分で開発環境を起動でき、学習、推論環境は柔軟にスケール
- 多数のAPIを提供しており、他サービスとの自由度の高い連携が可能
- 東京を含む17リージョンで提供
- ほとんどのコンテナ、SDKはオープンソース





# Amazon SageMaker Notebook instance

• SageMaker 上のワークフロー(環境・データのインポート,モデル定義,学習ジョブ,デプロイ,エンドポイント呼び出し)を SageMaker Python SDKで記述する







# 学習: 分散学習や複数学習ジョブの同時実行

- APIを経由で学習用のインスタンス を起動可能で、学習が完了すると自 動で停止する
- 高性能なインスタンスを手動で停止 したりせずに済み、簡単にコストを 抑えることができる
- 指定したインスタンス数で分散学習 環境が容易に構築できる



# SageMaker が Managed Spot Training に対応!

• これまでの学習コストを最大で90%削減

NEW!

- すべてのフレームワーク,モデル,学習構成で利用可能
- Checkpointing により Spot instance が落ちても途中から学習を再開

```
In [8]: mnist_estimator.fit(training_data_uri)

aceholder is deprecated. Please use tf.compat.v1.placeholder inste
W0828 14:00:47.032024 140424720971520 training.py:181] It
odel. Your training job will not save any model files to S3.
For details of how to construct your training script see:
https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src.
sorflow-script

2019-08-28 14:00:53 Uploading - Uploading generated training m
2019-08-28 14:00:53 Completed - Training job completed
Training seconds: 1544
Billable seconds: 620
Managed Spot Training savings: 59.8%
```

https://aws.amazon.com/jp/blogs/aws/managed-spot-training-save-up-to-90-on-your-amazon-sagemaker-training-jobs/



# 推論: API エンドポイントやバッチ推論

- 一般に作業負荷の大きい推論環境 の構築を、API1つで簡単に実現
- 推論の負荷にあわせてGPUをア タッチできるElastic Inference
- バッチ推論を使えば、必要なとき だけエンドポイントを利用可能
- エンドポイントはオートスケール 対応
- A/Bテストをサポート



オートスケールの設定やA/Bテスト 用にリクエストの割り振りが可能



# 開発・学習・推論は個別に利用可能

**例 1: 部署全員に対してマネージドノートブック環境を提供したい場合** 管理不要のノートブックをホストする環境として SageMaker を利用



**例 2: プロダクション環境がオンプレミスにすでにある場合** スケーラブルな学習環境としてのみ SageMaker を利用可能



**例 3: オンプレミスに豊富な GPU クラスタを持っている場合** オンプレミスで学習済のモデルを AWS 上のプロダクション環境にデプロイ





# アジェンダ

- 機械学習の課題に対する SageMaker のメリット
- SageMaker を利用した機械学習プロセス
- 機械学習の開発・学習・推論を効率化する基本機能
- ・まとめ



# SageMaker の基本構成要素



SageMaker **Python SDK** 

学習データ





学習スクリプト





DL / ML 実行環境











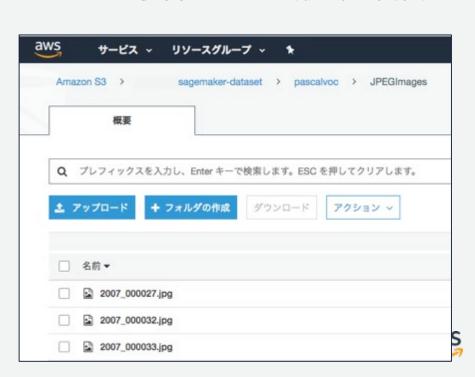




# 学習データの準備

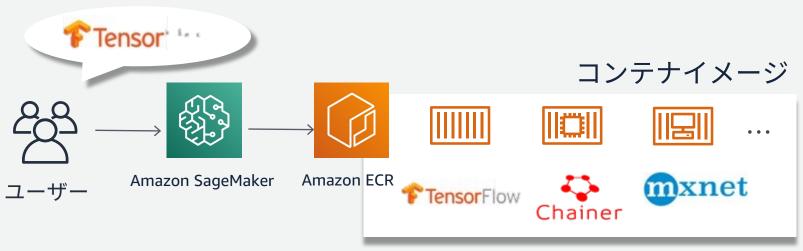
- 学習データはオブジェクトストレージの Amazon S3におく
- 学習用のコードで読める形式であれば、学習データの形式は自由
- コンソールからでも、API 経 由でもアップロード可能





# 機械学習の実行環境をコンテナイメージで提供

- 実行環境をコンテナイメージとして Amazon ECR (Elastic Container Registry) におく
- ユーザは、自身が利用したい環境 (TensorFlow など) をコンテナイメージから選んで利用





# SageMakerに合わせた学習・推論コードの書き方

```
class MLP(chainer.Chain):
   def init (self, n units, n out):
       super(MLP, self).__init__()
   def __call__(self, x):
       h1 = F.relu(self.11(x))
       h2 = F.relu(self.12(h1))
       return self.13(h2)
if name ==' main ':
   parser = argparse.ArgumentParser()
   parser.add argument('--epochs', type=int, default=50)
   parser.add argument('--test', type=str, default=os.environ['SM CHANNEL TEST'])
   args, = parser.parse known args()
   train data = np.load(os.path.join(args.train, 'train.npz'))['images']
   model - L.Classifier(MLP(1000, 10))
   optimizer = chainer.optimizers.Adam()
   optimizer.setup(model)
   trainer.run()
   serializers.save npz(os.path.join(args.model dir, 'model.npz'), model)
def model fn(model dir):
   model = L.Classifier(MLP(1000, 10))
   serializers.load npz(os.path.join(model dir, 'model.npz'), model)
   return model.predictor
```

## ①環境変数の渡し方

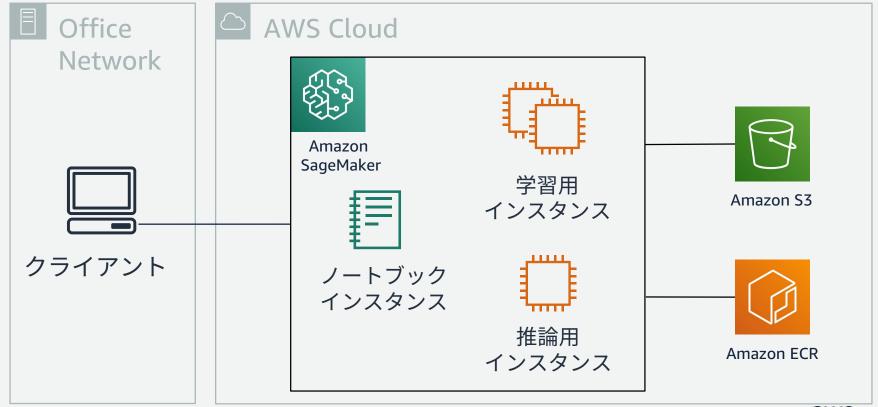
Chainer の場合,基本的には main 関数の中に学習処理をベタ書きすれば OK ハイパーパラメータや入力データのパス等は,SageMaker 側で引数として引き渡し,argparse で取り出す

## ②データの入出力

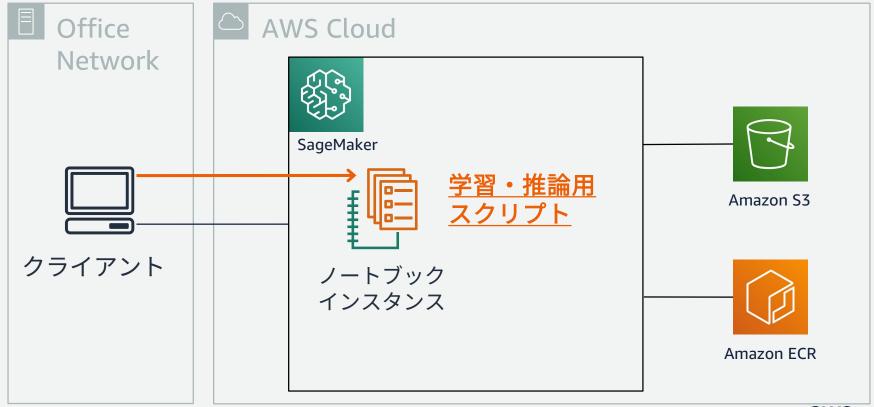
推論エンドポイントにおけるモデルのロード処理を、model\_fn()内に記述しておく. あとは SageMaker で提供される推論コンテナが、そのモデルを使ってくれる



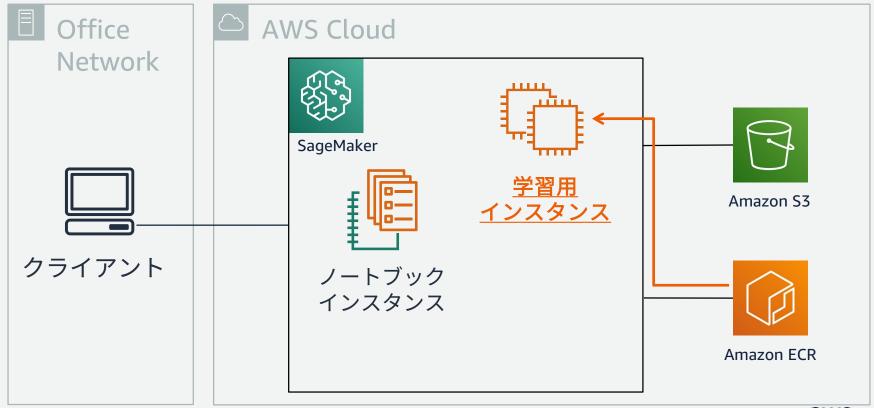
# Amazon SageMaker のアーキテクチャ



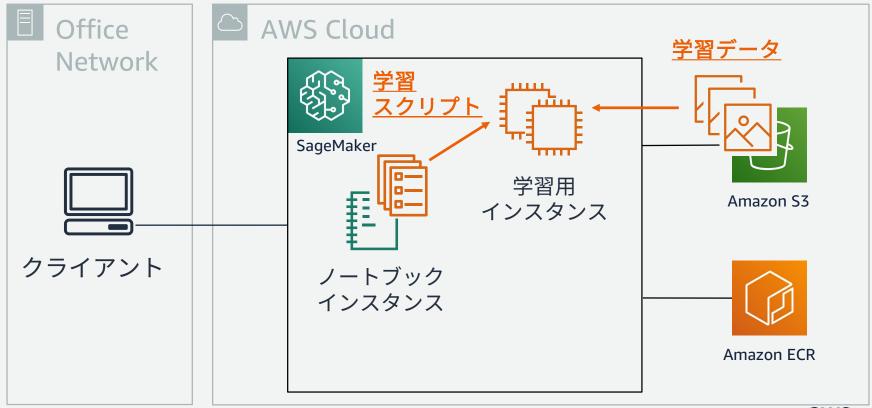
# 1. ノートブックインスタンスへコードを移行



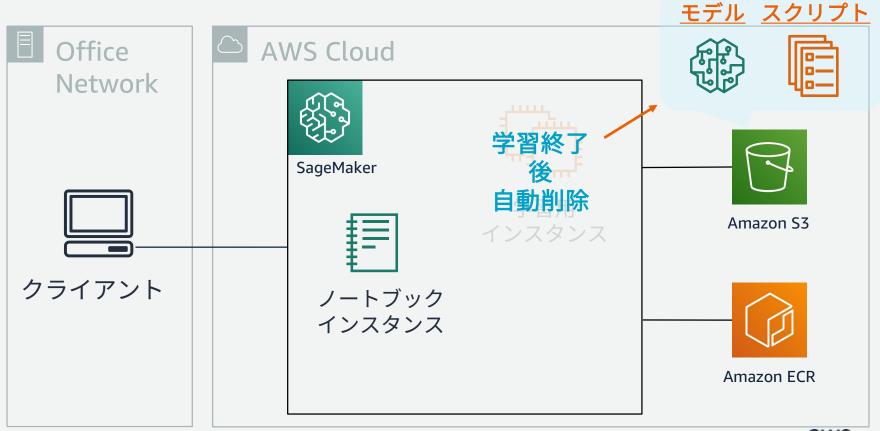
# 2. コンテナイメージから学習用インスタンスを起動



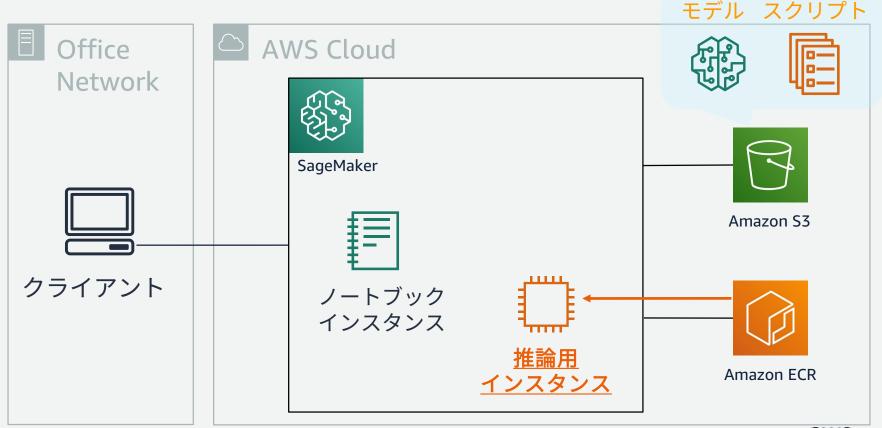
# 3. データとスクリプトを読み込み学習を実行



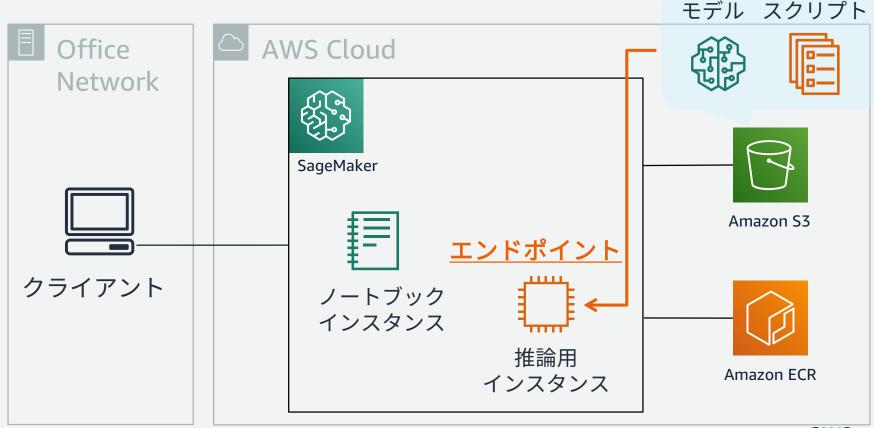
# 4. 学習が完了すると学習インスタンスは自動削除



# 5. コンテナから推論用インスタンスを起動



# 6. モデルを読み込みエンドポイント作成



# SageMaker Python SDK による 学習・推論の流れ

from sagemaker.chainer.estimator import Chainer

content type='text/csv')

instance type='ml.m4.xlarge')

ジョブを実行するためにまず, Estimator クラスのオブジェクトを作成 Chainer の場合は,専用の Estimator が ある.ローカルにある開発済みのスクリ プトを指定

fit() を実行すると,指定したインスタンスが立ち上がり,用意された Chainerコンテナを読み込み,S3 データを使って学習ジョブを実行する

学習が終わったら、deploy()メソッドを叩くと、裏側でエンドポイントが作成される.predict()で実際に推論を実施可能

バッチ推論は transformer.transform() で実行. S3 から対象データを読み込んで, 推論結果も S3 にファイル出力



transformer.transform(test data,

# アジェンダ

- 機械学習の課題に対するSageMakerのメリット
- SageMakerを利用した機械学習プロセス
- 機械学習の開発・学習・推論を効率化する基本機能
- ・まとめ



# 開発・学習・推論を効率化する基本機能





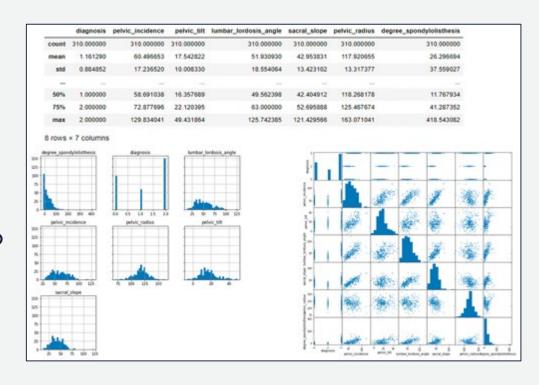
# 開発・学習・推論を効率化する基本機能





# ノートブックインスタンスでのデータ前処理

- EBSを16TBまで拡張可能
- 前処理に便利なNumpy,Pandas などのパッケージが プリインストール済み
- Jupyterで対話的に処理できる
- 前処理用に、EMRといった他 のサービスを呼び出すことも 可能





# S3からのファイル転送

FILE モード (Default): 全ファイルをダウンロードして学習



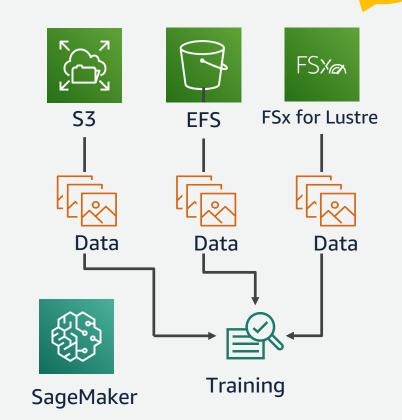
PIPE モード: ダウンロードしながら非同期に学習を実施



## 学習時のファイルシステムにEFSとFSx Lustreが対応

NEW!

- 学習用のファイルシステムとして、 EFS と FSx Lustre を直接指定可能に
- 学習ジョブの開始時に S3から学習 インスタンスのEBSへのデータ転送 にかかっていたオーバーヘッドが削 減される
- 同一ファイルを用いた反復の学習 ジョブなどの場合では、高速キャッ シュとしてファイルシステムを利用 できる





# 開発・学習・推論を効率化する基本機能





# SageMaker ビルトインアルゴリズム

~機械学習モデル~

モデル名	教師データ	アルゴリズム説明	利用用途の例
Linear Learner	あり	線形回帰	分類・回帰などの分析
XGBoost	あり	XGBoost, 勾配ブーストツリー (eXtreme Gradient Boosting)	分類・回帰などの分析
PCA	なし	主成分分析 (Principal Component Analysis)	次元削減
k-means	なし	K平均法	クラスタリング
k-NN	あり	K近傍法	クラスタリング
Factorization Machines	あり	行列分解	レコメンド,回帰,分類
Random Cut Forest	なし	robust random cut tree	時系列データの異常検知
LDA (Latent Dirichlet Allocation)	あり	生成的統計モデル	トピックモデル

※ LDAのオリジナルは教師なし

https://docs.aws.amazon.com/sagemaker/latest/dg/algos.html



# SageMaker ビルトインアルゴリズム ~ ディープラーニング モデル ~

	モデル名	教師データ	アルゴリズム	利用用途の例
画像処理	Image classification	あり	ResNet	画像の多値分類
	Object Detection	あり	SSD (Single Shot multibox Detector)	物体の画像内領域をバウン ディングボックスで検出
	Semantic Segmentation	あり	FCN, PSP, DeepLabV3 (ResNet50, ResNet101)	ピクセル単位の画像内の物体 領域検出
自然言語 処理	seq2seq	あり	Deep LSTM	テキスト要約,音声認識
	Neural Topic Model	なし	NTM, LDA	テキストデータの構造化
	Blazing text	なし	Word2Vec	センチメント分析
		あり	Text Classification	単語のマイニング
	Object2Vec	あり	Word2Vec 一般ベクトル化	分類,レコメンド
時系列	DeepAR Forecasting	あり	Autoregressive RNN	確率的な時系列予測
異常検知	IP Insights	なし	NN (IPとentityの関連付け)	悪意あるIPアドレスの検出



# **Image Classification**

- ILSVRC 2015で優勝したResNet による高精度な画像認識
- AWS が学習済みのモデルを提供しており、ユーザ固有の データに合わせて追加学習 (転移学習) が可能

dog



cat



https://docs.aws.amazon.com/ja\_jp/sagemaker/latest/dg/image-classification.html



### ビルトインアルゴリズムを利用した場合のコード

- 使いたいアルゴリズムのコンテナイメージを呼び出す
- S3のデータを呼び出して fit すれば学習が行われる
- インスタンス数を指定するだけで、分散学習がすぐに実行できる



## AWS Marketplace から機械学習のモデルを購入する

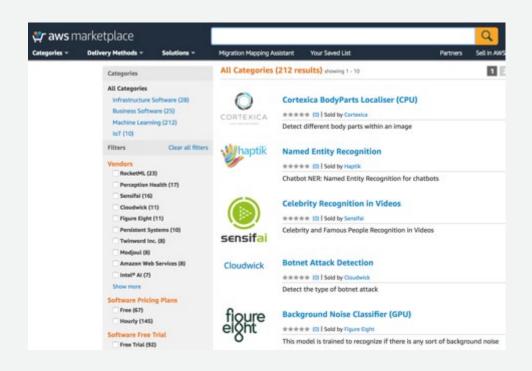
AWSマーケットプレイス経由で、 SageMaker上で使う機械学習モデルの売買が可能.小売、メディア向けなど200以上のアルゴリズムがすでに公開済み

#### アルゴリズム購入者:

Amazon SageMaker で学習ジョブおよび,推 論エンドポイント(バッチ推論ジョブもok)

#### <u>アルゴリズム購買者:</u>

モデルの中身を秘匿してモデルの出品が可能



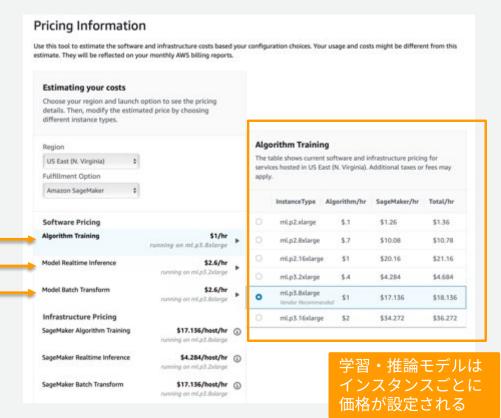


## MLマーケットプレイス 価格

SageMakerコンソール,SDK,AWS CLIからアクセス可能

価格:モデルパッケージの利用に対し、 ソフトウエア使用料と AWS のリソース 使用料を利用時間に応じて課金

- アルゴリズム学習
- モデルリアルタイム推論
- モデルバッチ推論





## 開発・学習・推論を効率化する基本機能



## 様々なコンテナイメージの提供

• 一般的に利用される機械学習のフレームワークは、コンテナイメージとして提供されており、ユーザは必要なものを選んで利用できる



- フレームワークごとの Docker ファイルは全てgithubで公開
- ユーザーは公開された Docker を自由にカスタムし,自身のコンテナをECR に上げることでカスタム環境を SageMaker で利用できる



### ご自身で学習スクリプトを開発される場合

• SageMaker でサポートしているフレームワーク一覧 19年2月13日時点の情報です

	フレームワーク	SageMaker container サポートバージョン
Deep learning	TensorFlow	<u>Legacy mode:</u> 1.4.1, 1.5.0, 1.6.0, 1.7.0, 1.8.0, 1.9.0, 1.10.0 <u>Script mode:</u> 1.11.0, 1.12.0, 1.13.0
	Chainer	4.0.0, 4.1.0, 5.0.0
	PyTorch	0.4.0, 1.0.0, 1.1.0
	MXNet	0.12.1, 1.0.0, 1.1.0, 1.2.1, 1.3.0, 1.4.0, 1.4.1.
ML	scikit-learn	0.20.0

https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker

TensorFlow
Chainer:

PyTorch:

MXNet:

Sklearn:

https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/tensorflow
https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/chainer
https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/pytorch
https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/mxnet
https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/sklearn



### **TensorFlow**

### Using TensorFlow with SageMaker Python SDK

https://sagemaker.readthedocs.io/en/stable/using\_tf.html

#### TensorFlow SageMaker Estimators and Models

https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/tensorflow

#### SageMaker TensorFlow containers repositories here:

Training: <a href="https://github.com/aws/sagemaker-tensorflow-container">https://github.com/aws/sagemaker-tensorflow-container</a>

Serving: <a href="https://github.com/aws/sagemaker-tensorflow-serving-container">https://github.com/aws/sagemaker-tensorflow-serving-container</a>



### **PyTorch**

Using PyTorch with SageMaker Python SDK

https://sagemaker.readthedocs.io/en/stable/using\_pytorch.html

PyTorch SageMaker Estimators and Models <a href="https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/pytorch">https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/pytorch</a>

SageMaker PyTorch containers repositories

https://github.com/aws/sagemaker-pytorch-container



# SageMaker コンテナによる学習と推論のメリット

#### 学習

- 分散学習を簡単に行うことができる
- ハイパーパラメータ最適化機能を提供,並列実行可能
- コンテナが動く環境であれば手元のPCでも実行可 (ローカルモード)

#### 推論

- リアルタイム推論とバッチ推論を利用可能
- 適切なGPUをアタッチできるElastic Inferenceによる推論高速化
- オートスケーリング, A/Bテスト可能なエンドポイントを簡単に構築



## 分散学習が簡単に実装できる

#### インスタンス間の通信などインフラ部分は実装済

学習用APIへのリクエスト

インスタンスタイプとインスタンス数を指定

学習コード内の実装 (例: TensorFlowでHorovodを利用)

```
opt = tf.train.AdagradOptimizer(0.01 * hvd.size())
opt = hvd.DistributedOptimizer(opt)
```

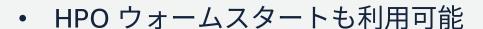
コード自体は分散学習対応で書く必要がある

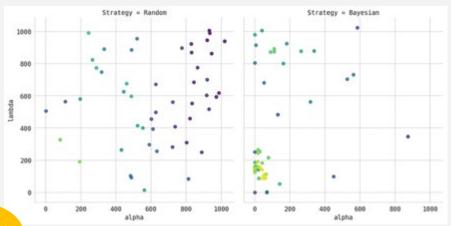


### ハイパーパラメータ最適化

- Deep Learning では、多くのパラメータを調整する必要がある
  - 学習率
  - Dropout率
  - ・ バッチサイズ,...
- 学習ジョブの並列実行を活用し、 最適なパラメータを高速に探索
- デフォルトはベイズ最適化
- ランダム探索も選択可能に









## ハイパーパラメータ最適化(HPO)の書き方

- 1. Chainer estimator 初期化の際に hyperparameter を指定
- hyperparameter\_ranges に探索 したいハイパーパラメータを連続 値またはリストで範囲指定
- 3. Tunerジョブを指定, Hyperparameter\_rangesや最適化 の目的となるメトリクスを定義す る
- 4. .fit() で<mark>ベイズ最適化</mark>によるHPO ジョブスタート.

```
hyperparameter_ranges = {'lr': ContinuousParameter(0.001, 0.1), batch-size': CategoricalParameter([32,64,128,256,512])}
```

```
tuner = HyperparameterTuner(estimator,
objective_metric_name,
hyperparameter_ranges,
metric_definitions,
max_jobs=9,
max_parallel_jobs=3,
objective_type=objective_type)
```

tuner.fit({'training': inputs})



## ローカル環境での実行

- 1. Notebook Instance の上で学習・推論を行う
  - デバッグの際,Dockerから学習・推論インスタンスを立ち上げる時間が勿体無い
  - train\_instance\_type='local' とする,Notebook Instance のインス タンスサイズをデバッグ用途に合わせる
- 2. オンプレミス環境でSageMakerを動かす
  - Docker,AWS SDK,SaceMaker Python SDK をインストール SageMakerの学習・推論ジョブを実行可能
  - オンプレミスとのハイブリッドなSageMaker環境が作成できる
  - train\_instance\_type='local' でローカルで学習を実行

https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/sagemaker\_from\_onpremises/



# SageMaker コンテナによる学習と推論のメリット

#### 学習

- 分散学習を簡単に行うことができる
- 並列実行可能でハイパーパラメータ最適化も可能
- コンテナが動く環境であれば手元のPCでも実行可(ローカルモード)

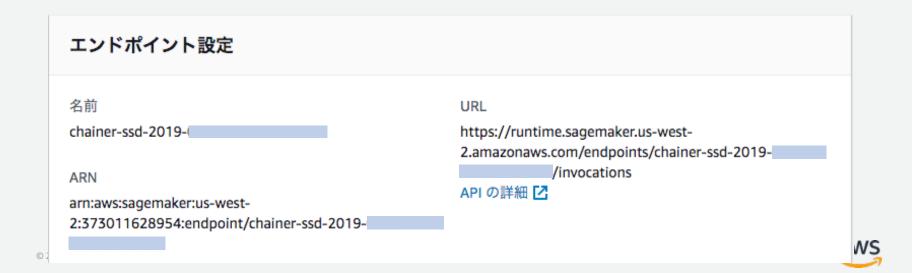
#### 推論

- リアルタイム推論とバッチ推論を利用可能
- 適切なGPUをアタッチできるElastic Inferenceによる推論高速化
- オートスケーリング, A/Bテスト可能なエンドポイントを簡単に構築



## リアルタイム推論

- deploy() を呼ぶだけでエンドポイントを構築でき、APIサーバ構築に 関する作業は不要
- Web APIのURLが発行され、URL にリクエストを送ると推論できる
- エンドポイント起動中は料金がかかる



## バッチ変換ジョブ (バッチ推論)

- リアルタイム推論が必要でない場合、推論エンドポイントを維持するとコストがかかる
- バッチ推論では、推論が必要なときに、エンドポイントを作成し、 推論後のエンドポイント削除を自動で行う





## CPU インスタンスの計算を GPU でアクセラレート

- スタンドアロンのGPU は主に学習に最適化されており、推論には大きすぎる
- 適切なGPU リソースをCPUに関連づけることで、高速な推論を低コストで実行



インスタンス	EIA	推論速度 (msec)	価格 (\$/hour)
c5.large	なし	230 msec	\$0.085
c5.large	eia1.medium	46 msec	\$0.22
p2.xlarge	なし	42 msec	\$0.90

価格は 2018/11 時点のバージニア北部のもの

https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/amazon-elastic-inference-gpu-powered-deep-learning-inference-acceleration/



#### **Amazon Elastic Inference**

• 推論に適した低コストのGPU駆動のアクセラレーションを,CPU の EC2 および SageMaker インスタンスに適用.DL 実行コストを最大75%削減

#### • 利用方法

- エンドポイントのインスタンスにEIAアタッチして利用
- ローカルモード推論時は SageMaker Notebook インスタンスにEIAをアタッチ

Accelerator type	TFLOPS FP32 throughput	TFLOPS FP16 throughput	Memory in GB
ml.eia1.medium	1	8	1
ml.eia1.large	2	16	2
ml.eia1.xlarge	4	32	4

https://docs.aws.amazon.com/sagemaker/latest/dg/ei.html



## 機械学習パイプライン全体の支援

- 2018年のre:Inventで、開発・学習・推論に対する基本となる機能に 加えて、ラベリングやモデル変換をサポート
- パイプライン全体を管理する機能も追加





# 機械学習パイプライン全体の支援

- 2018年のre:Inventで、開発・学習・推論に対する基本となる機能に加えて、ラベリングやモデル変換をサポート
- パイプライン全体を管理する機能も追加





## Git 統合 によりレポジトリからの直接学習が可能に

- SageMaker 上で Git レポジトリを登録しておくことで、ノートブックインスタンス起動時に clone される
- Amazon SageMaker Python SDK で学習/ホスティングする際に Git リポジトリからスクリプトを直接指定可能に





## 機械学習パイプライン全体の支援

- 2018年のre:Inventで、開発・学習・推論に対する基本となる機能に加えて、ラベリングやモデル変換をサポート
- パイプライン全体を管理する機能も追加





## 学習ジョブの検索機能



• 学習ジョブ名や学習時に指 定したタグなどで、過去に 実施した学習ジョブを検索 できる

• 学習時の精度を正規表現で 記録していれば、コンソー ル上でソートが可能で、最 も良い学習結果を後で探す ことができる

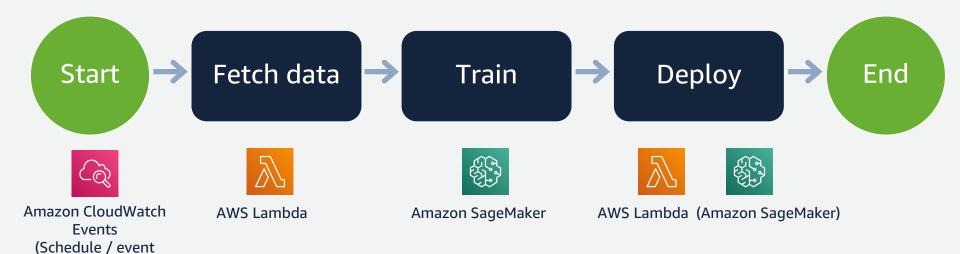


https://aws.amazon.com/jp/blogs/machine-learning/amazon-sagemaker-now-comes-with-new-capabilities-for-accelerating-machine-learning-experimentation/?nc1=h\_ls



# **AWS Step Functions**

- JSON ベースの言語でステートマシンを記述できるマネージドサービス
- AWS Lambda をはじめとした各サービスに対応
- CloudWatch Event でスケジュール実行やイベントトリガーが可能





trigger)

# Apache Airflow 対応

- Airflow 1.10.1 よりSageMaker Operator をサポート
- 既存の Airflow 環境からSageMaker を呼んでパイプラインを構築可能

#### Airflowサーバでの設定

Airflow の Operator を利用して DAG でパイプラインを定義

transform\_op.set\_upstream(train\_op)

```
SageMakerのAPIで
学習・推論の設定作成

train_config = training_config(...)

trans_config
=transform_config_from_estimator(...
)

推論

SageMakerのAPIで
学習

学習

「学習

「学習

「おおおい」

「おおい」

「おいい」

「おいい」
```



# 機械学習パイプライン全体の支援

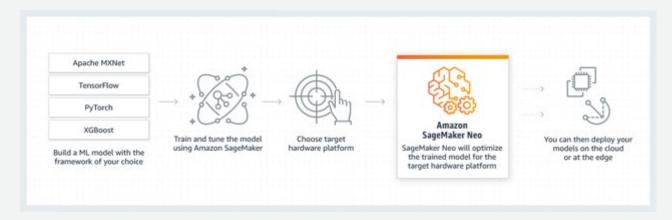
- 2018年のre:Inventで、開発・学習・推論に対する基本となる機能に加えて、ラベリングやモデル変換をサポート
- パイプライン全体を管理する機能も追加





## Amazon SageMaker Neo

- Tensorflow や PyTorch などのモデルを、 EC2 インスタンスや Greengrass デバイス上で高速に動作するように変換するサービス
- 従来のDeep Learning フレームワークが 500MB-1GB 程度であるのに対し、 Amazon SageMaker Neo Runtime は 1MB 程度
- Apache Software License で OSS として提供予定





# SageMaker Python SDK による Neo 利用の流れ

学習

C5向けに最適化

C5にデプロイ

```
mnist_estimator = TensorFlow(
           entry_point='mnist.py', role=role, framework_version='1.11.0',
                training_steps=1000, evaluation_steps=100,
           train_instance_count=2, train_instance_type='ml.c4.xlarge')
mnist_estimator.fit(inputs)
optimized_estimator = mnist_estimator.compile_model(
           target_instance_family='ml_c5', input_shape={'data':[1, 784]},
                output_path=output_path, framework='tensorflow',
                framework_version='1.11.0')
optimized_predictor = optimized_estimator.deploy(
           initial_instance_count = 1, instance_type = 'ml.c5.4xlarge')
```



# SageMaker Python SDK による Neo 利用の流れ

学習

C5向けに最適化

C5にデプロイ

```
mnist_estimator = TensorFlow(
           entry_point='mnist.py', role=role, framework_version='1.11.0',
                training_steps=1000, evaluation_steps=100,
           train_instance_count=2, train_instance_type='ml.c4.xlarge')
mnist_estimator.fit(inputs)
optimized_estimator = mnist_estimator.compile_model(
           target_instance_family='ml_c5', input_shape={'data':[1, 784]},
                output_path=output_path, framework='tensorflow',
                framework_version='1.11.0')
optimized_predictor = optimized_estimator.deploy(
           initial_instance_count = 1, instance_type = 'ml.c5.4xlarge')
```



### セキュリティ: 暗号化とコンプライアンス

- 学習と推論のジョブにおいてサーバ側の暗号化 (SSE-KMS) を利用可能
- 以下のものをすべて暗号化可能
  - 学習時の入出力データ
  - 学習用インスタンス、エンドポイントインスタンスのストレージ
  - バッチ推論時の入出力データ
- Cloudtrail に対応済み
- PCI DSS および HIPPAに対応済み



### セキュリティ: 閉域網での通信

- SageMaker と S3 のデータ通信はすべて S3 VPC エンドポイント経由で行うことが可能
  - 学習ジョブの入出力における S3 アクセス
  - 学習済モデルをデプロイする際の S3 アクセス
- SageMaker の API はすべて PrivateLink 経由で行うことが可能
  - SageMaker Notebook Endpoint
  - SageMaker Service API
  - SageMaker Runtime API



### アジェンダ

- 機械学習の課題に対するSageMakerのメリット
- SageMakerを利用した機械学習プロセス
- 機械学習の開発・学習・推論を効率化する基本機能
- ・まとめ



### まとめ

- 機械学習のマネージドサービス Amazon SageMaker を使うことで,インフラ構築を気にせず,すぐに機械学習をはじめることができる
- DLフレームワークやライブラリの定常的なアップデートを気にすることなく、モデル開発に集中できる
- 全体のワークフローの管理や、コスト最適のための新サービスなど、 便利な機能が日々アップデート



#### Reference

SageMaker Example Notebooks

https://github.com/awslabs/amazon-sagemaker-examples

SageMaker SDK

https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk (Doc はこちら: https://readthedocs.org/projects/sagemaker/)

SageMaker 公式ドキュメント

https://docs.aws.amazon.com/ja\_jp/sagemaker/latest/dg/whatis.html



#### Reference

#### Amazon SageMaker PyTorch container

https://github.com/aws/sagemaker-pytorch-container

#### Amazon SageMaker PyTorch estimator

https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk/tree/master/src/sagemaker/pytorch

#### Using PyTorch with the SageMaker Python SDK

https://sagemaker.readthedocs.io/en/stable/using\_pytorch.html





ご静聴ありがとうございました!

